

【令和元年度古文書講座 第二講座】

美濃郡代笠松陣屋文書（将軍家茂上洛に関する文書）を読もう

令和元年 12 月 4 日 岐阜県歴史資料館 入江康太

## 8、史料 1～3 から読み取れる美濃郡代・幕府役人らの動き

9 月以前	将軍家茂の上洛の東海道・佐屋路通過が決定
9 月 18～26 日頃	幕府御勘定大嶋東一郎ら 3 名、将軍上洛の道橋見分のため江戸出発
9 月 27 頃	幕府勘定奉行根岸肥前守衛奮、将軍上洛の道筋見分のため江戸出発
9 月 29 日	大嶋東一郎、美濃郡代岩田鋏三郎へ、将軍が佐屋路から船で桑名まで移動することを伝え、水行確認のため堤方役原田良之助・田中欣一郎の尾張国宮宿への派遣を依頼
9 月 30 日～ 10 月 1 日早朝	三河国池鯉鮒宿へ、大嶋東一郎ら 3 名の岡崎宿・池鯉鮒宿・佐屋宿宿泊の先触れが到着 それを受けて 10 月 1 日午前 7 時～7 時 40 分に笠松陣屋へ上記の内容を連絡
10 月 1～2 日	岩田鋏三郎、池鯉鮒宿からの連絡を受け、堤方役原田良之助・棚橋兎五六を大嶋東一郎らのもとへ派遣
10 月 2 日	9 月 29 日付け大嶋東一郎書状が岩田鋏三郎のもとへ到着 岩田、田中欣一郎を追加派遣

## 9、船の種類

- ・鵜飼船：高瀬舟系の川船の一種。美濃白石 - 伊勢桑名間を往復した貨客用のものは、長さ 13 m ほどの 1 枚だなの細長く、船首尾が鵜船に似た箱造りなのが特徴。
- ・高瀬舟：近世以後、川船の代表として各地の河川で貨客の輸送に従事した船。就航河川の状況に応じた船型、構造を持つが、吃水の浅い細長い船型という点は共通する。
- ・渡海船：大洋を航海する船。または江戸時代、主要都市間を連絡して貨客輸送にあたった海船。
- ・躰船（ひらたぶね）：平田船、平駄船とも。上代から近世にいたるまで大型川船として貨客の輸送に重用された吃水の浅い細長い船。
- ・四乗（よつのもり）：伊勢国桑名地方で使われた躰船系の四人乗りの小船。
- ・瀬取船：港で廻船から積荷を瀬取りする喫水の浅い船。

(いずれも『日本国語大辞典』より)

10、美濃・伊勢国船数調査結果（史料4から）

	領主・代官	村数	舟数
1	美濃郡代岩田鋏三郎	羽栗郡笠松村他 5 村 伊勢国桑名郡金廻村他 11 村 計 18 村	美濃分 59 艘 伊勢分 221 艘
2	大垣藩預所	本巢郡只越村他 12 村	50 艘
3	高須藩領	石津郡高須町他 9 村	24 艘
4	高富藩領	各務郡芥見村他 6 村	24 艘
5	旗本岡田将監領	大野郡北方村他 4 村	80 艘
6	陸奥国磐城平藩領	厚見郡日野村	7 艘
7	旗本津田越前守領	安八郡白鳥村他 1 村	3 艘
8	旗本坪内伊豆守領	羽栗郡下中屋村他 7 村	93 艘
9	旗本坪内帯刀領	羽栗郡無動寺村他 1 村	27 艘
10	旗本坪内織部領	羽栗郡松本村	2 艘
11	旗本加藤平内領	大野郡杉野村	7 艘
12	旗本松波平右衛門領	池田郡野中村	5 艘
13	備中国岡田藩領	池田郡脛永村	2 艘
14	野村藩領	大野郡八木村	2 艘
15	旗本平岡石見守領	中島郡堀津村	2 艘
16	伊勢国長島藩領	伊勢国桑名郡見入新田他 33 村	318 艘
	合計	美濃国・伊勢国 106 村	926 艘